



いなべ市
ひらお つよし
平尾 剛志さん

推薦者 本人（自薦）

育児対象 お子さん
（4歳、5歳）



推薦文：産まれた時から寝かしつけを担当していた私。今でも寝かしつけは父親である私の担当。毎日寝る時にする事は、「1日の楽しかった事の発表会」。年子の娘たちは保育園で友達と遊んだ事や先生と何かを作ったなど、嬉しそうに話をします。もちろん私も発表をします。仕事が進んだ。会議がまとまった等を子どもに分かるようにお話します。娘たちの話を毎日聞いているので、保育園の友達の名前はほとんど言えます。最後には「明日も楽しい1日にしようね♪おやすみ♪」です。

そんな風に接してきたので、娘たちも私のことが大好きのようなのです。先日、些細な事で5歳の長女と喧嘩をしました。その日の夜にもらった手紙です。

おとうさんへ

いっぱいだいすきだよ

きょうはもんくゆてごめんね

ほんとわゆいたくなかたんだよ

きょうはかきごおりかてくれてありがとう

きょうはかたずけしてくれてありがとう

いつでもあそぼうね

めいより

娘の成長をすごく感じた瞬間でした。これからも寝かしつけを通して、たくさんコミュニケーションをとり、いつまでも娘たちが大好きなお父さんでいたいと思います。

審査員共感ポイント

- お子さんの素直な手紙に心打られました。
- コミュニケーションをしっかり持ち、喧嘩までできる親子関係に共感した。
- 1日の発表会という家族の時間をきちんととっているところがステキ！自信をもって育児をしている姿がある。



多気町
しむら かずひろ
志村 和浩さん

推薦者 本人（自薦）

育児対象 お子さん
（0歳、4歳、6歳）



推薦文：昨年4月に東京から三重県に家族4人で引っ越ししてきました。10月には次女が生まれ、今では家族5人で多気町に暮らしています。私はフリーランスで仕事をしていることもあり、家族と一緒に過ごす時間が多く、食事づくりと授乳以外は全ての家事と育児を妻と分担しながら担っています。おかげさまで、パパ友は少ないのですが、近所のママ友とはフェイスブックなどで情報交換などしています。

そんな中、昨年10月に地元の多気町丹生でハロウィンイベントを企画、運営しました。理由は東京から越してきた当初、長男（現6歳）と長女（現4歳）が時々東京に戻りたいとシクシク泣いていたこと。何とか三重での生活が楽しいと感じてもらえるようにできることは無いかなと考え、衣装を着てお菓子をもらえるハロウィンイベントを開催しようと決めたのです。でもせっかく自分たちで開催するなら、丹生ならではのイベントにしたいと考え、地元の和菓子屋さんやまめやさん、食改グループに手づくりお菓子の準備をお願いし、実現にこぎつきました。こうしてイベントの準備を進めるうちに地域の方々ともつながることができ、信頼関係も築くことができましたし、たくさん子どもたちにも顔を覚えてもらうことができました。参加者も当初は100人限定の予定でいたところ、最終的には150人の子どもたちが参加していただき、たくさん笑顔を見ることができました。今年も地域の方々に応援いただき、11月3日に無事開催することができました。昨年は雨天のため屋内でのイベントでしたが、今年は丹生の田園風景に、可愛い衣装を着た子どもたちが楽しそうに歩き回る笑顔の花が咲きました。

審査員共感ポイント

- 子どもと地域を結びながら、育児に取り組む姿を感じた。
- 都会から引っ越してきて、地域を巻き込んでイベントを開催できる行動力がすごい！
- 日ごろの子どもとの関わりを当たり前と思っている姿勢に好感が持てる。